

1 研究主題について

(1) 研究主題

よりよい生活を創り出す豊かな心と
実践力の育成
～「してもらおう自分」から
「できる・生かす自分」～

(2) 主題設定の理由

岐阜県小学校家庭科研究会の研究主題に準じて設定した。研究主題の「よりよい生活を創り出す豊かな心と実践力の育成」を実現するために大きく三つの手立てを考えた。一つ目は、まず「今の生活を見つめ、してもらおう自分を意識する」生活アンケートや調査、インタビュー活動を行い、子どもの意識の流れを大切にした指導構想を工夫すること。二つ目は、「できる自分を目指して知識や技能を身に付けたい」という主体的な学びを生み出すための問題解決的な体験学習活動を工夫すること。三つ目は、評価の場面と評価方法を工夫することで、自信をもって「できた、分かった」「家でもやってみよう」と学びが生活実践につながることである。こうした手立てを行うことで、研究主題に迫ることができると考えた。

(3) 願う児童の姿

5年生家庭科学習の初めの「ガイダンス」では、2年間で行う学習内容を見て「おもしろそう」「早くやりたい」など家庭科の学習を心待ちにしている児童が多かった。また、「家でお母さんとやったことがある」など学習内容に自信のある児童もいた。しかし、「うまくできるかな」という児童も少なからずいた。そこで、児童の「おもしろそ

う」という気持ちが持続できたり、「うまくできるか心配だけど、まずはやってみよう」と挑戦してみる気持ちになったりできる学習方法を工夫することが大切だと考えた。さらに「お家の人にコツを聞いてみよう」「家でもやってみよう」など学校の家庭科と実際の家庭生活が相互に連動し、より自分の生活を豊かにする児童の姿を目指したいと考える。

2 研究内容について

(1) 研究仮説

目指す児童の姿を実現させるため、教師が授業で、

- ①子どもの意識の流れを大切にした指導構想を工夫する
 - ②問題解決的な体験学習活動を工夫する
 - ③評価の場面と評価方法を工夫する
- ことを通して、児童がよりよい生活を創り出す豊かな心と実践力を育成し、「してもらおう自分から」、「できる自分・生かす自分」に近づく。

(2) 研究内容

- ①指導構想を工夫する
- ②体験学習活動を工夫する
- ③評価の場面と評価方法を工夫する

(3) 研究の具体的方途

①指導構想の工夫

題材はじめに生活アンケートや調査、インタビュー活動を取り入れ、児童一人ひとりが「してもらおう自分」の存在に気付き、その状態を変えたいとより学習内容に興味関心をもつような意識の流れを作る。

②体験学習活動の工夫

作業や製作手順、調理手順を児童がイメージしやすい言葉や絵で示す。

また、児童が見つけた作業のコツを交流し合う場面を設ける。作業の出来栄を評価する項目をはっきりさせ、自己評価や相互評価に役立てる。

③評価の場面と評価方法の工夫

学習前に家庭学習の課題を出し、児童が生活の中で見つけた問題点等を授業で出し合うことができるようにする。また学習後にも課題を出し、学習した内容を家庭で活用する機会や、発展的な学習内容を紹介する場を設ける。

3 実践事例

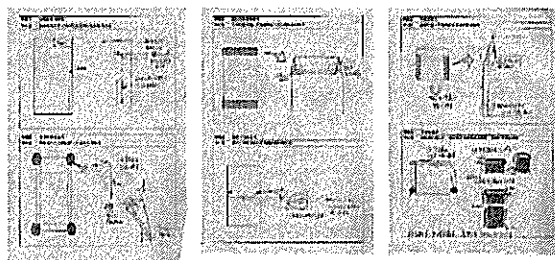
(1) 指導構想の工夫

5年生の4月の「見つめてみよう わたしの家族の生活」のプリントを、衣食住それぞれの題材前に使って、自分一人で行っていることや、家族の力を借りてしていることなどを意識する場を設けた。その後各題材の目当てを確認することで、自分一人で行えるようになりたい、知りたいという気持ちを高めるよう心掛けた。

また、本校の5年生の宿泊研修は6月で、例年自分で作ったナップザックを使用している。春の慌ただしい時に注文する煩雑さを回避するため、本年度は教材や裁縫道具を4年生で注文済みであった。そこで、子どもたちの今まで以上に「早く作りたい」という気持ちに応えるため、ナップザック製作をより簡単な手順とし、時間ごとの製作内容をはっきりさせた。

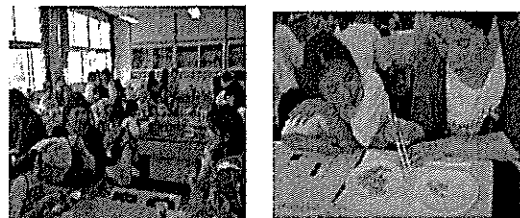
ミシンを扱う授業は、こちらからの説明をできるだけ少なくし、使い方プリントや

動画等を見ながら子どもが試行錯誤する時間をたっぷりとるように心掛け、ナップザック製作中にミシンでつまずくことがないようにした。

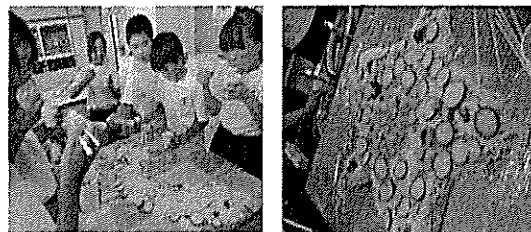


(2) 体験学習活動の工夫

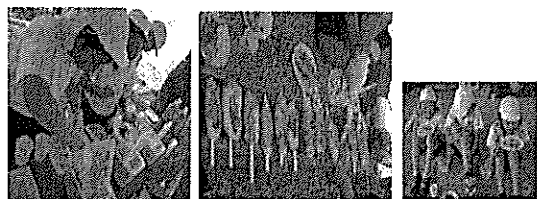
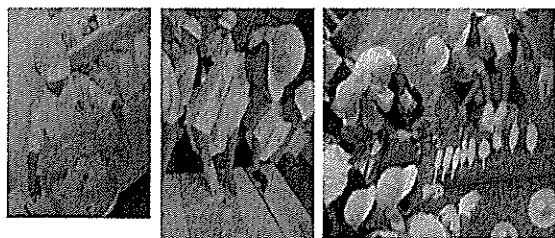
5年生の「はじめてみようクッキング」では卵や青菜をゆでる勉強をする。また「家族ほっとタイム」では楽しく団らんという学習がある。そこで、その2つの勉強を兼ねて、5年生の6月の参観日ではお茶と簡単な食べ物（餃子の皮をゆでて、きな粉と砂糖で味付け）を用意し、保護者と楽しい時間を過ごすことにした。食べた後は、親子で箸使いの練習をして、豆つまみを競い合う時間も設けた。



また、5年生のゆでる勉強の後に発展として、学年みんなで「そうめんパーティー」と題して机の上に流しそうめん風にそうめんを盛りつけて楽しむ時間を設けた。



さらに、5年生のご飯の勉強は秋に行うが、NHK朝ドラ人気にあやかり、導入として五平餅作りを学年で行った。ご飯を炊く勉強は秋なので、今回は家庭から自分の食べられる分だけをラップフィルムに包んで持って来させ、まとめて蒸す。その後、手でつぶして割りばしにくっ付け（NHK動画参照）、空焼きをした。4種類のタレから好みのタレを選んで付けもう一度焼いた。作っている間に割り箸からご飯が落ちてしまう子がいると予想されたため、薄く油をつけた網を置いてその上で焼いた。宿泊研修でU字溝を使ってパーベキューをした経験もあり、安全に楽しい「五平餅パーティー」をすることができた。



6年生の「共に生きる生活」の学習では、周りの人に感謝の気持ちを表そうと、例年雑巾を作って、6年生から在校生にプレゼントしている。ミシンで雑巾を作り、手縫いで「モクモク」「ファイト」などメッセージを縫ったり、ブック型雑巾に挑戦したり、より在校生のためにと考えて製作活動を行うことができた。

また、家族のために感謝を伝える宿題（家族のために食べ物と飲み物を用意する）に合わせて、感謝の気持ちを込めたカード（花

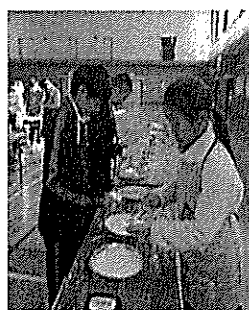
束が飛び出す）を作った。

さらに、仲間と感謝を伝え合う場として「むしむしパーティー」と題して、簡単蒸しパン（食パンでシュウマイを包んで蒸す）を行い、学年みんなで楽しんだ。

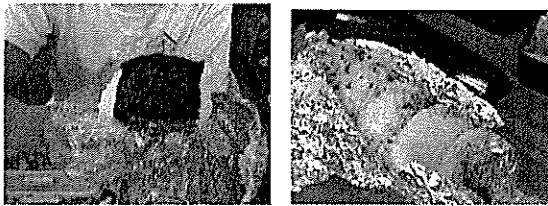


（3）評価の場面と評価方法の工夫

6年生「楽しくソーイング」では、エプロンの製作を行った。評価の一つとして、エプロンが完成した後、「エプロンパーティー」と題して、エプロンを身に着けて体育館のステージからランウェイに見立てた赤絨毯の上を歩き、学年みんなで見合い、最後の決めポーズを写真に撮った。みんなが完成したお祝いの雰囲気を盛り上げるため、セルフカナッペ（クラッカーに好きな物を乗せる）と飲み物も用意し、楽しい時間を過ごした。



また、本校では「お弁当の日」という日がある。例年テーマを決めて家庭科でお弁当の計画を立てるが、今回は6年生の総合的な学習のテーマ国際交流を意識して、お弁当の計画におにぎりを入れることを奨励した。「世界食糧デーキャンペーン（おにぎりアクション2017）に80枚の写真を投稿（1投稿につき、100円が協賛企業から寄付され、アフリカ・アジアの子どもたちに給食5食分が寄付される）した。



4 成果と課題

(1) 成果

①指導構想の工夫

○「見つめてみよう わたしの家族の生活」を繰り返し扱うことで、児童の実態をつかむことができた。

○ミシンの操作は教師主導で行うことが多かったが、プリントや動画等を活用して、児童がグループで交流しながら試行錯誤することで、主体的な学びができた。

②体験学習活動の工夫

○児童が楽しい！という実感をもつ場を工夫することができた。

○ゆでるといふ調理法だけでも、活用すれば様々な調理ができることが分かり、家庭で実践しようという気持ちをもたせることにつながった。

○ご飯の学習は秋だからとせず、今話題の五平餅を取り入れることで、児童が家庭でも家庭科の話を多くする機会が増えた。

③評価の場面と評価方法の工夫

○自分の作ったエプロンに自信をもって見せ合う姿や、みんなの完成を喜ぶ姿がほえましかった。

○自分がおにぎりを作ることが募金につながり、探せばまだ自分たちにできることがあるかも知れないという明るい気持ちももてた。

(2) 課題

①指導構想の工夫

・今年度は4年生の時に教材を購入して進級してきたが、ナップザックの製作を5年生の春に行うことが妥当かどうか、製作する教材の見直しなど、学校全体で話し合う必要がある。

②体験学習活動の工夫

・調理においては、今まで以上にアレルギーのある児童への対応を万全にする必要がある。

・学年で行う場合、特に活動時間や場所、予算等の確保をしっかりとる必要がある。

・より学びが深く印象に残るように、児童の実態にあった活動を選び、授業に組み込んでいく。

③評価の場面と評価方法の工夫

・〇〇パーティーで安心、安全に活動を楽しむために、その題材中にしっかり基礎基本を身に付けさせ、評価の場を通して児童に自信をもたせるようにする。

その他

・WFPチャリティーエッセイコンテスト

・給食メニューコンテスト

・「味覚の一週間」

参加予定